

Q

21

## 胚移植で移植する胚の適切な数というのはあるのでしょうか

A

生殖補助医療が進歩し融解胚の生存率が格段に向上したこと、また複数胚移植による多胎妊娠数が著しく増加したことから、世界各国で多胎妊娠防止のための移植胚数に関するガイドラインが作成されてきました。日本生殖医学会でも、下記に示すように2007年3月に「多胎妊娠防止のための移植胚数ガイドライン」が作成されています。

また、2008年4月には日本産科婦人科学会から「生殖補助医療における多胎妊娠防止に関する見解」が発表され、移植する胚は原則として1つとするという単胚移植推奨の見解が示されました。

7章

生殖補助医療について

### 多胎妊娠防止のための移植胚数ガイドライン(日本生殖医学会)

- 1) 移植胚数を3個以内とすることを厳守する。
- 2) 多胎妊娠のリスクが高い35歳未満の初回治療周期では、移植胚数を原則として1個に制限する。なお、良好胚盤胞を移植する場合は、必ず1胚移植とする。
- 3) 前項に含まれない40歳未満の治療周期では、移植胚数を原則として2個以下とする。なお、良好胚盤胞を移植する場合は、必ず2個以下とする。
- 4) 移植胚数の制限に伴い、治療を受けるカップルに対しては、移植しない胚を凍結する選択肢について、各クリニックにおいて必ず提示する。

#### 【参照生殖医療ガイドライン CQ】

CQ20：適切な移植胚数は？ 単胚移植 (single embryo transfer, SET) は多胎妊娠抑制に有用か？